



学長メッセージ



卒業生の皆さん!

鈴鹿医療科学大学 学長 作野 史朗先生

卒業生の皆さん、皆さんは日本の医療や福祉の世界で、大いに活躍しておられることを心よりお慶び申し上げます。

「科学技術の進歩を、真に人類の福祉と健康の向上に役立たせる」という高邁な建学の精神を掲げて、平成3年に日本初の医療科学の総合大学として、鈴鹿医療科学技術大学の名称で発足した本学は、平成10年に鈴鹿医療科学大学に大学名を変更、学生・卒業生の皆さんと教職員の皆さまの活躍により、新学部・新学科・大学院・東洋医学研究所等を次々と設置し、全国から入学生を迎え入れる医療科学の有名な総合大学に成長いたしました。2008年4月には白子キャンパス(旧NTT西日本の研修所跡)に薬学部を設置、優れた教授陣と、充実した教育研究施設を整備し、第1期生を迎え入れました。そして、4000名を超える卒業生が、北は北

海道から南は沖縄まで、全国のすべての都道府県にいて、健康・医療の世界で、あるいは福祉の世界で活躍しているという、誇るべき状況ではありますが、これもひとえに、鈴鹿医療科学大学の卒業生という誇りを持って活躍して下さっている、卒業生の皆さんのお陰であると感謝いたしています。

私たち人類は、文化文明を著しく進歩させより良く生きることができ、快適な社会を築いてきた、光のある世界を築いてきた、と信じていたら実はその裏で、資源枯渇と環境破壊、健康障害、格差のある社会という大きな犠牲、暗い影を作っていました。21世紀は、これらの影を修復し、自然や環境と共存共栄し、誰もがこの世に生きていて良かったという社会を築かなければなりません。さらに進んだ文化文明を享受するために、「人類の福祉と健康」

を守り、科学技術を発展させることが、真の「より良く生きる」ことに繋がります。皆さんは、この最も大切な基礎の部分で活躍しているのであります。

科学技術は常に進歩し続けます。医療科学の世界は、進歩し続ける多くの科学技術の分野の中でも、特に速いスピードで進歩する分野であります。皆さんの母校、鈴鹿医療科学大学は、常に科学技術の進歩の先取りをし、人類の健康と福祉に役立つ人材の育成をしています。どうか折に触れて、母校にお出で下さい。そして、恩師や母校に勤める同窓生と、後輩の学生と、楽しく語り、新しい空気を吸い、同窓生の絆をより強固なものとして、ある時は活躍のエネルギーに、またビタミンにして下さい。卒業生の皆さんのご健康をお祈りします。



ホームカミングパーティが開催されました!

2008年11月1日(土)、晴天の下、本学の大学祭が開催されました。今回は大学祭会場の一室をお借りし、14期の卒業生を中心とした同窓会を開催いたしました。「卒業生が母校(ホーム)に帰ってくる」ということで、「卒業生ホームカミングパーティ」と題し、9月から企画・準備をさせていただきました。

今回の企画のキッカケは本学同窓会役員の松浦先生からの「鈴鹿の同窓会で幹事をしてくれませんか?」というお願いでした。大学祭開催中に、その会場で卒業生を集めて同窓会をするというコンセプトでした。卒業して半年、仕事にもようやく慣れはじめ、久々にみんなに会いたいという気持ちがあり快諾させていただきました。話が決まってからは、覚えてたての仕事の合間をぬって鈴鹿に打ち合わせに向いたり、ビンゴ景品の買出しをしたり、後輩に飲食物の発注を頼んだり、準備中はまるで大学祭実行委員の時に戻ったかのような錯覚に陥りました。パーティ前日は当直明けでそのまま鈴鹿に入り、手伝ってくれた後輩たちと翌日の準備をしたのち、焼肉を食べに行ったり、深夜にスーパー銭湯に行ったりして本当に学生気分準備を楽しみました。ちなみにその日の夜は研究室で2時間ほど仮眠しました。幹事が1番楽しんでしまいましたが、参加してくれた皆さんはどうだったでしょう

か?

今回の卒業生ホームカミングパーティは、ホテルの会場を貸しきっておこなう同窓会らしい同窓会ではありませんでした。在学中に実験やレポート作成、時には教授に怒鳴られたこともある実習室で、豪華な食事もなければ美人コンパニオンさんたちもいません。ジュースとハンバーガー、おにぎりぐらいの軽食で、「物足りないな」と思った人もいたのではないかと思います。しかし、今回の1番の利点は在学中の思い出のつまった千代崎キャンパスの実習室のテーブルで、半年振りに同窓生と肩を並べて、学生に戻ったような気分になったことだと思います。ホテルの会場でドレスを着た同級生に会っても懐かしい反面、何か寂しい気分になっていたかもしれません。もしかしたら何を話していいか戸惑っていたかもしれません。あの日のあの時と同じ風景で、ふと「あー、学祭終わったら次のレポートやらないとなぁ」と思うようなシチュエーションで、同窓生たちの顔を見た時「久しぶりやなぁ! 元気?」という声から始まり、仕事の苦勞話とか昔の恋愛話とか、下世話な話も、「やせた?」「太った?」などどうでもいい話もたくさんできたのではないのでしょうか。僕自身、卒業してから変わらない皆さんの笑顔が1番嬉しかったです。僕と同じように参加



してくれた皆さんが、半年振りに学生に戻って楽しんでもらたなら幸いです。(ビンゴの景品は少し大人向けに設定させていただきましたが)

最後になりましたが今回、卒業生ホームカミングパーティの企画・運営に際し、お世話になりました鈴鹿医療科学大学同窓会役員の方々、前日から忙しい中、お手伝いしてくれた後輩たち、そして当日、遠くから足を運んでくれた同窓生の皆さん、本当にありがとうございました。しばらく日を置いて、「同窓会」という機会でもたお会いしたいと思います。それまでどうかお元気で。



大和高田市立病院 山口長志郎 (放射線技術科学科14期生)

2008年度大学祭 同窓会コーナー報告

2008年11月、2日に第18回碧鈴祭開催が開催され、同窓会コーナーを実験実習棟2階に設置しました。1期生から14期生まで総数145名(昨年118名、一昨年82名)の卒業生・教職員の方々が訪ねて下さいました。抽選会や思い出話に笑い声が飛び交い、会場内は大きく盛り上がる事ができました。本学の卒業生が母校に足を運び、大学時代を思い出して下さることを本当にうれしく思っております。今回も同窓会コーナーを設置できましたことを感謝いたします。ありがとうございました。今回、抽選会に参加して下さった皆様のアンケート結果をご報告いたします。



2008年度 鈴鹿医療科学大学同窓会アンケート結果(抜粋)

Q.大学祭同窓会コーナーには何回目ですか	人数	割合
今回がはじめて	63	61%
2~3回目	26	25%
4~5回目	2	2%
6回目以上	12	12%

Q.今回、興味のあったものはなんですか	人数	割合
抽選会	78	57%
ホームカミングパーティー	21	15%
パソコン・掲示板	0	0%
卒業生との集い	39	28%

Q.大学祭同窓会コーナーを何で知りましたか	人数	割合
同窓会会報	59	55%
ホームページ	5	5%
当日、パンフレット・ポスター	13	12%
知り合いから聞いて	24	22%
その他	6	6%

Q.大学祭同窓会コーナーで行ってほしいことがありましたらご意見をお聞かせ下さい。

- こんな感じでOK
- ピンゴ
- 楽しかったのでまた来ます
- 同窓会があったなんて知らなかった。気軽に手軽な抽選会のままでいいと思う
- 学科ごとのホームカミングパーティー
- 中西先生との雑談会
- 同窓会企画
- 続けていって下さい。できればもっと高価でいい景品を
- 来た時間が悪かったようで人が少なく残念だった
- 合同同窓会を楽しみにしています
- 次回も抽選会をしてほしい

特等 当選者の声



松井 大輔さん
(放射線技術科学科14期生)

今日は、鈴鹿を卒業後半年しかたらずしてこちらに舞い戻ってきました。東芝メディカルシステムズ(株)CT事業部の松井です。鈴鹿には、むとけん5期生の集会有り訪れたわけですが、たまたま立ち寄ったブースで、ガラガラをしたら見事特等が当たってしまいました。日頃デスクワークが多くて運動不足なので、これを機にWiiでヨガをしたいなと思います。賞品ありがとうございました。

1等 当選者の声



笠井 智美さん
(医療栄養学科13期生)

今日は、大学の時の友達と来ました。とても懐かしい雰囲気浸っています。私は老人ホームで管理栄養士として働いていますが、大学時代に得たこと、出会った人達は大きな心の支えとなっています。これからも、感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

2等 当選者の声

中村 智美さん(医療栄養学科 3期生)

毎年、楽しみにしていましたが、やっと来ることができました。本当に懐かしいです。これからもがんばって盛り上げてください。

2等 当選者の声

村重 勝範さん(放射線技術科学科 3期生)

“2等当選！！”ありがとうございました。卒業後、毎年参加させていただいております。お世話になった先生方、同期の友人達に会い、有意義な時間を過ごすことができました。また、来年も楽しみにしています。学生の皆様も、学業でお忙しいでしょうが、学園祭の方も盛り上げていってください。

同窓会事務局からののお知らせ

同窓会事務局のメールアドレス・ホームページが変わりました!

同窓会ホームページは大学のホームページ内に移動しました。ぜひご覧ください。

★同窓会事務局メールアドレス: alumni@suzuka-u.ac.jp

★同窓会ホームページ <http://www.suzuka-u.ac.jp/graduate/index.html>





支部紹介：鍼灸学部

第1回鈴鹿医療科学大学鍼灸学部同窓会開催

鍼灸学部同窓会会長 大杉 義史

平成20年11月23日に第1回鍼灸学部同窓会が、四日市駅前の『わたみんな家』で開催されました。参加者は平成20年3月に鍼灸学部を卒業した第1期生の約1/3にあたる15名と、佐々木学部長、樹田先生の計17名でした。鍼灸学部同窓会は全学同窓会の支部として活動すること等を規定した会則と役員人事が承認された後、歓談に移りました。参加者の中には、筑波や大阪など県外からの参加者も多く、お互いの現在の生活や診療の様子などを話して親睦を深めました。

参加者

佐々木学部長、樹田先生
大杉、金子、河村、菅尾、清水俊樹、鈴木、田古、橋本、羽根、堀場、増田、村瀬、森澤、矢澤、山崎

●鍼灸学部同窓会役員

会長 大杉義史 事務局長 菅尾佑輔
理事 増田雄介

鍼灸学部同窓会員報告

●丸山鍼灸科(四日市市) 菅尾 佑輔

「一年を振り返って」

大学を卒業し鍼灸院に就職してからのこの一年は、すべてのことに必死で毎日があったという間でした。いい環境に恵まれ、多くのことを学び、経験できた一年でした。

私は鍼灸師ですが、初めは、人生経験も臨床経験も少ない私が患者さんに治療師として接していくことに、とても不安がありました。また、任された治療で効果がなかなかあがらず焦ったことや、治療中に起きる予想外の出来事への対処の悪さに叱られたことも、幾度となくありましたが、患者さんから楽になったとお礼を言ってもらえたときは、心底嬉しく、励みになりました。

最近、鍼灸治療に関する専門書(古典文献)を読み始めました。治療するにあたって、深い知識が必要と感じるようになったからです。大学の講義でも古典文献の読解はありましたが、即使える知識にならないのではと思い、

あまり重視していませんでした。当時は「この症状だったらこのように治療する」という定型な治療例だけ必死に覚え、「どうしてこのように治療するのか」という基本の部分はおろそかになっていました。専門書を読んだことにより、今まで効果が得られなかった症状に対してなぜなのかが分かっていただけでなく、応用の手がかりになり、治療の幅が広がったように思います。しかし、教科書どおりに当てはまらない患者さんを治療するのに必要な発想力や応用力は、今勉強している基本を知識として身につけただけでは培われないということも、身にしみて分りました。

また、知識が増えれば、多くのことを施してしまい、必要以上の刺激をすることもあるので、整理して適切な治療ができるようにならないといけないとも思っています。現在、医療技術が進歩していく中で、鍼灸が必要と



されているのは、鍼灸、東洋医学には、その特徴でもある全体治療という考えがあるからです。局所治療ではなく、全体を診ることで、人間が本来もっている自然治癒力を高め、治療に導くことができます。ただし、どうやって体全体を捉えるか、これは私の今後の課題です。

またこの一年で、鍼灸の技術だけでは治療ができないことも思い知りました。今後、技術だけでなく、医療カウンセリングなど、心の面も勉強していかなければ、良い治療師になることはできないと痛感しています。

●明治国際医療大学大学院 脳神経外科学教室MI 村瀬 智一

僕が大学院進学を考えに持ち始めたのは大学2年の頃でした。大学入学当初、卒業後は臨床に進むつもりでした。しかし、大学で学べばわかると思っていた鍼灸治療のメカニズムにはまだまだわからない事がたくさんあることを知り、研究という分野に興味を持ちました。実際は、その後も進学が就職かの二択の悩みを繰り返しましたが、結果は今経験するチャンスがあることはやっておこうと思立ち大学院進学を決めました。

現在は明治国際医療大学脳神経外科学教室に在籍させていただき、核磁気共鳴画像法(MRI)を用いたラット脳損傷モデルの分子イメージングという実験テーマを行っています。今後はMRIを使って鍼灸による身体の機能変化を調べていきたいと考えています。

僕が在籍する明治国際医療大学は京都府南丹市という処にあります。ここは研究に集中する為の環境だと思えます。近年は

学内での大学院進学希望が増えているらしいのですが、僕らの代で外部の大学卒業生が入るという前例が来ていたので毎年鈴鹿の卒業生が明治の大学院に行くという流れを止めなければ今後の鈴鹿卒業生の選択枝が増えると思います。大学院には就職後、再び学ぶ為に進学する人もいるので既に就職している方も、興味があったら是非一度大学の見学に来てみることを薦めたいと思います。

●市立砺波総合病院 東洋医学科 山形 由紀

① 現況

臨床研修鍼灸師として働き始めて早や1年。最初は緊張で止まらない汗を拭いながら、必死で冷静を装いつつも慌ててシャーレをひっくり返したり、短くなった線香で自分の指を火傷してしまったり、失敗の連続でした。1年が過ぎ、少しは慣れてきましたが、まだまだ反省だらけの毎日です。今は、肩こり、腰痛、膝痛などの疼痛疾患に加え、骨盤位、顔面神経麻痺、透析や抗がん剤治療の副作用を主訴とする患者さんなど1日10人前後を担当しています。病院の職員の方も患者さんとしてお見えになります。最近では脳

梗塞や脳腫瘍等で入院中の患者さんに対して他科から鍼灸治療の依頼があるなど、大変さの中にやりがいを感じつつ、尊敬できる先生方に囲まれて充実した日々を送っています。

② 今の課題

手を温かく、やわらかく保つこと。気負わない。

③ 同窓生に一言

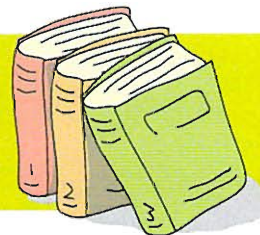
「鍼灸っていいね」の笑顔で溢れた世界の現実にむけて!!

④ 在校生に一言

鍼灸は治療法も考え方も多種多様で奥が

深い分、結局どんな治療法がいいのか、何を勉強すべきなのか、前が見えなくなることがあるかもしれません。在学中はとにかくいろいろな人の身体に触れて、友達同士で治療し合い、身体を感じながら勉強していくことが大切だと思います。右の合谷に刺鍼したら左の合谷に響いたり、足三里に鍼を接触させるだけで鼻がスーッと通ったりと、鍼灸の世界は毎日が新しい発見の連続です。大学で勉強できる環境を最大限に生かして、学生生活を楽しんで下さい。

鈴鹿医療科学大学 大学院 保健衛生学研究科のご紹介



本学大学院はこの3月に15名の修士修了生を送り出し、平成8年4月の開設以来、修士の学位授与数は146名、博士の学位授与数は21名となりました。今日まで多数の修了生を輩出することができました。

最近は社会人院生の割合が増えており、本学大学院では社会人の方が就業しながら講義が受講できるよう、毎週木曜日に授業を固めて開講しています。しかし、現在は週に1回は仕事を休んでいただいています。

そこで、この4月から社団法人日本放射線技師会のご協力のもと東京にサテライトキャンパスを設置し(日本放射線技師会講義室の借用)、土日の講義出席にて修士課程を修了できるコースを開設しました。コースは「放射線治療学コース」と「医用画像情報管理学コース」です。

今年4月に17名の社会人の方が本学大学院に入学しました(このうち8名が、東京サテライトキャンパスの入学生です。また、従来の大学院には9名の社会人が入学しました)。

授業料は年間80万円です。また、入学金20万円を本学卒業生は免除されます。

同窓生の皆さんも大学院に興味がありあましたら、是非受験してみてください。入試要項は6月下旬頃に完成予定です。



2010年度 鈴鹿医療科学大学 学生募集について

2009年度入試では、推薦入試 面接方式をすべて専願試験とし、一般入試では、従来1日に2学科受験していた「午前型」・「午後型」を廃止し、1回の試験で第2志望学科を登録できる制度を導入しました。また、2年目の入試となった薬学部では「センター利用方式」が導入されるなど新たな入試方式も実施しました。しかし、18歳人口の減少をはじめ、全国各地に医療系学部・薬学部を有する大学が

多数設置されていることもあり、競合他校との激戦となっています。地元志向がさらに強まり、通学範囲内で進路選択をする受験生が増える中、他の医療系大学との差別化が求められています。日本初の医療系大学である鈴鹿医療科学大学の魅力をより多くの方に認識していただくために社会に通用する医療人の育成が求められます。教職員一丸となって教育内容の充実と人材育成に努めてまいります。

学生募集においては、本学の教育内容・方針をご理解いただいている同窓生皆様のご支援・ご協力が必要です。全国各地でご活躍中のOB・OGのネットワークを活かし、鈴鹿医療科学大学を発展させていきたいと思っております。ご親族やお知り合いの方で医療系に関心のある受験生の方がいらっしゃいましたら、本学の案内などを無料で送付させていただきますので、ご連絡ください。その際、本学同窓生の〇〇〇〇ですが、とおっしゃっていただくと幸いです。よろしく願い申し上げます。

募集学部・学科

学部	学科	定員
保健衛生学部	放射線技術科学科	100名
	医療栄養学科	40名
	理学療法学科	40名
	医療福祉学科	60名
医用工学部	臨床工学科	40名
	医用情報工学科	40名
鍼灸学部	鍼灸学科	60名
薬学部	薬学科(6年制)	100名

編集後記

今年の鈴鹿は暖冬で、早い春が来たと思っていたら、急に冷え込む寒さがやってきて、春の後に冬が来たような感じでした。昨年から大学も8学科に増え、キャンパスも千代崎・白子の2か所となりました。入学式が行なわれる頃の白子キャンパスは一斉に咲いた桜がとてもきれいです。卒業生の皆さんには、懐かしい千代崎キャンパスと新しく仲間入りした白子キャンパスの両方に来ていただきたいなと思います。次号は2009年大学祭情報をお送りする予定です。ぜひ、母校に足を運んでみてください。